

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100445		
法人名	有限会社 風		
事業所名	グループホーム「シュアー」		
所在地	岐阜県多治見市東栄町1-35-1		
自己評価作成日	平成26年7月20日	評価結果市町村受理日	平成26年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivvosvoCd=2171100445-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成26年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境、広い庭を利用して、四季の植物を育て、ゆったり過ごせる生活空間作りに努めています。今年度は災害時必要物品の総点検と食事作り体験に力を入れ、集中的に行っています。衣食住に分け、ホーム外で過ごす時の課題を知り、一つずつ解決に向けて取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間のゆったりとした環境にあり、芝生の庭が広々とし四季折々の草花を居室から眺めることが出来る。居室の窓からグリーンカーテンを通して射し込むやわらかい光が心地よい。日常生活のそれぞれの様子は要点が適切に記録され、申し送りノートで情報の共有を図っている。利用者やその家族などから今までの生活状況を聞いて整理し、更にきめ細かなアセスメントを行い、プラン作成に活かしている。代表者は介護の質はマンパワーであると考え、職員が楽しく長く仕事を続けられるように利用者移動リフトを導入している。利用者にも負担なく、職員の腰痛解消になっている。また地域との交流に努力し、認められるようになってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に意識して利用者さんに対応してもらえよう、ホーム内、スタッフ休憩室、玄関等に理念を掲げています。	「ゆっくり楽しく一緒に」を玄関や人の目の付く所に掲げ、機会に触れ理念をくり返し話している。管理者は、利用者には孫や娘のような職員と家族のように一緒に楽しく暮らしてもらいたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方がホームに遊びに来やすいように、子供用プールを開放したり、季節行事で作ったお料理を近所の方へふるまったり、お裾分けしています。	最近地域の方にもホームについて理解されるようになったが、行事に参加されることはまだ多くはない。しかし野菜などのお裾分けがあったり、行事で作った物をお届けするなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアマネージャーさんを通じ、地域で見守りの必要な方の情報を伺い、声掛け、訪問等を行い、関係をつないでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で話題になった防災について、具体的な取り組みを行っています。災害時必要物品の把握、災害時の食事作り体験等を実施しています。	運営推進会議の有効活用は十分とは言えないが、運営推進会議で提案があり、備蓄品(α米)の試食体験を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム会議、市のサービスネットワーク会議に出席し、新しい情報の理解や他事業所とのネットワーク作りに努めています。認定調査員として月に1~2回活動しています。	運営推進会議で市の担当者や地域包括支援センターの出席がある。代表者は市の認定調査員として活動しており、行政との情報交換は常に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や朝の申し送り、ショートカンファレンスにおいて話し合いを行っています。安易に外出制限をしてはいけない反面、危険回避も重要であり、現場の判断で外出の機会を設ける工夫をしています。	玄関は安全面を視野に入れ施錠しているが、身体拘束をしないケアについて職員は理解し、機会ある毎に話し合っている。室内から見渡せる広い芝生の庭があり、いつでも外気浴ができ開放的な環境で寛ぐことができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	文書研修を行い、分からないこと等、随時質問を受け、入社3ヶ月以内、入社3年目の職員には研修を行い、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修、文書研修、全体会議等で学ぶ機会を持ち、活用されたい保証人様の相談にのったりしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、保証人様の前で書類を読み、特に重要なことは書類に下線を引きながら詳しく説明し、その都度、不安や疑問点を尋ね、答えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話等話しかけやすい雰囲気作り、言葉遣い等を心がけています。玄関に設置してある意見箱、伝言ノートやメールでご家族の希望を伺い、反映させています。	家族には通信を郵送したり電話で確認している。転倒した利用者の家族からリハビリをして欲しいと希望があり、車椅子を使用せず手引歩行を行うなど、必要な方には運動を取り入れ要望に答えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ショートカンファレンス、申し送りノートを通じて現状の把握に努めています。提案や改善の必要性に応じて、当日、週単位、月単位で対応し、サービス内容の充実に努めています。	代表者・管理者には話しやすい雰囲気があり、職員の意見や思いを聞き、業務の改善に努めている。職員が長く仕事を続けるためには負担を軽くすることが必要と考え、利用者にも負担なく安全で腰痛予防の為移動リフトを導入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の生活状況を考慮し、勤務時間、休日に対応しています。定年制を廃止し、希望する人は健康である限り働き続けられる仕組みにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外での研修を積極的に行っています。文書研修、講師を招いての講演会、新聞記事等を活用し、新たな技術、知識の習得に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会、会議には積極的に参加し、人的ネットワーク作り、勉強の機会となるよう進めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に生活している場所に訪問し、ご本人やご家族、施設の方に思いを伺い、記録に残し、全職員が情報を入所前から共有し、安心して生活していただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や契約時等にご家族様から直接お話を伺い、要望等、主治医や職員で情報共有、検討し、介護計画に取り入れて柔軟に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しやすい雰囲気心がけ、五感を働かせながら、ご本人、ご家族から別々に思いを伺い、全職員で情報を共有し、介護計画に取り入れたりして対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中で、昔の知恵や生活を教えていただいたり、洗濯干し、たたみ、机拭き、食器拭き、お部屋掃除等、スタッフと一緒にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、ご家族の思いを伺ったり、認知症の進行に応じたケアサービスの提供等について支援いただけるようお話ししています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族よりご本人の好きだったこと、近くのスーパーについての情報や、お友達の写真を提供していただいたり、お孫さんに来ていただいたり、ご本人の家のそばまでドライブしたりして、思い出していただけるように努めています。	利用者の誕生日に、自宅を訪問したり、近所を歩き、馴染みの関係を大切にしている。陶芸を営んでいた方には、展示場(ミュージアム)へ見学に行き、つながりが継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールや庭の東屋のベンチに座り、利用者様の会話を聞いたり、トラブルになりそうな時は事前に察知できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子について連絡をいただいたり、体調で心配なことを伺い、アドバイスをさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不安な気持ちを理解した対応を心がけています。このスタッフの顔を見ると見覚えがあつて安心すると感じていただけよう、寄り添う形で笑顔を忘れず接したいと思っています。	「ゆっくり」と利用者のペースに併せ、「一緒に」に生活する中で声掛けして希望が聞けたり、仕草や表情などで思いの把握をしている。「楽しく」生活してもらえよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からお話を伺ったり、ご本人に気持ちを伺ったりしています。なかなか言葉にならない方でも辛抱強く引き出すように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できないことが増えていく中で寂しさを感じておられると思いますので、触れ合うことで安心していただき、今残っている能力を大事に働きかけています。とにかく話しかけることの大切さを感じています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式、ひもときシート、検討会を活用したり、ご家族と担当者会議を行い、いろいろな方の意見やアイデアを取り入れ、作成しています。	個別の様子を記録し、申し送りノートで情報の共有をしている。利用者やその家族などから得た情報をセンター方式にて整理し、ひもときシートを使ってきめ細かなアセスメントを行い、プラン作成に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の様子や気づきなど、ケース記録、申し送りノート、健康ノート、口頭で情報を共有しています。業務中での気づきは、その場でミニカンファレンスを行い、結果を記入しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の状況に可能な限り対応できるように、その場でカンファレンスを行ったり、ご家族に連絡し相談したりして、早く柔軟な対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	習慣、行事、思い出の品、家族、親しかった友、動物等、内外部の情報を集め、安心して生活していただけるように努めています。楽しみや喜びで笑顔が多く見られる計画や工夫をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診に加え、体調不良時には電話やファクスで相談しています。往診は随時お願いしています。月3～4回歯科訪問診療を行っています。	本人希望の医師・医療機関も受信でき、事業所の協力医とも良好な関係が築かれている。家族同行での受診時は事業所側からの健康記録を持参し、その後の病院からの情報も共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、朝の申し送りやノートを通じて健康情報を伝えています。ホーム内の看護職は病院の看護師に相談し、適切に対応しています。爪切り、髭剃り、足浴等を看護職と相談しながら実施し、清潔ケアの徹底に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段と様子が違い体調変化のある時は電話報告し、往診を依頼、主治医の判断で救急病院へ行く時は、紹介状または直接搬送先の医師に電話での病状説明を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人、ご家族の意向を伺い、文書にしています。重度化や終末期には主治医、ご家族と事業所で話し合いを重ね、ケア方針を全職員に伝え、チームで支援を行っています。	入居時に終末における意向を確認し、利用者・家族の思いに寄り添う支援がされている。看取りの経験もあり、管理者・職員は医師との連携体制をとり、利用者の状態変化に応じて支援方法を検討の上、看取りに至る努力をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	少しでも利用者様の様子がおかしい場合は管理者に伝え、すぐに対処するようスタッフの間でも話し合いを常に持ち、大事に至らないよう気を配っています。外部の方を招いて座学会も実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月内容を変えて30分程、当日勤務者で避難訓練を実施しています。防災用品等の点検も、全員が把握できるよう、責任者を決めて実施中です。	昼夜を問わずの避難訓練は毎月行われ、消防署との連携も良好である。職員は積極的にAED・消火器等の訓練を行い、万全な対策が取られている。職員一人ひとりの備蓄品の把握も十分に出来ている。	管理者・職員は常に安全を心掛けているが、利用者の重度化が進む中、夜間は人手がなく、災害時地域の支援を得るにはどうしたらよいか検討し、次回の訓練に取り組まれることを希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	しなくてはいけないと思いますが、なかなかできていないと思います。忙しくしているときほど配慮に欠けた言動をしてしまい、反省することがしばしばあります。	「風」通信は利用者それぞれの写真のみを載せて個別に発信しており、プライバシーを損なわない配慮がある。職員の不適切な言葉があった時は、その場で注意したり申し送りノートで周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご家族様に連絡を取ってほしいと言われたら、理由等お聞きして、ご本人に納得がいくようお話して、意に沿うようにしてあげたいと思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体の不自由の違いや年齢などに配慮して、その方に合った無理のない暮らし方を心に置いて介助しようと思っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起きてご自分の席に座られたら、鏡、櫛、整髪料、化粧水等を用意して、ご自分のできる方にはしていただき、できない方にはスタッフがお手伝いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パンケーキを作ったり、庭でとれた食材を使って料理したりしています。玉葱の皮むきのお手伝いをさせていただいたりもします。	利用者が自分の力を発揮し、食材に向き合い手を動かしており、その表情は実に生き生きと楽しそうである。自分達が手をかけた物がおやつに出ることで、利用者は喜びを感じ食欲も増している。職員の工夫された支援が活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、主食、副食は一人一人に合った量を提供しています。器やコップを替えたりして自力摂取しやすいよう介助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じて、歯科医からの指導に従い、薬を使用しています。毎晩、義歯はホームで保管し、日曜日に洗浄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の生活の中で一人一人パターンの違う排泄に合わせた方法で、気持ちよく過ごせるよう支援を行っています。	日中は布パンツとパットで過ごし、本人の生活リズムに沿った支援となっている。自ら行動しトイレに行かれる人にも、職員がさりげなく見守りすることで、自尊心の傷つくことのない対応がとられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に便秘になりやすい体調を考え、飲食、運動等で予防と対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿った入浴時間を設定し、会話、笑顔が見られるように、次回の入浴を楽しみにできるように支援しています。	週3回の入浴で、利用者がゆっくりと楽しめるシステムとなっている。冬場の入浴のない日には足湯を用意する等、配慮ある対応がとられている。拒否される方には、日を変えたり浴室へ案内して理解を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの体調に合わせて、午前、午後1時間程休息を取っていただいています。月に1回以上はシーツを洗い、布団干しをしています。寒暖や光等の配慮もしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量をスタッフ2人で確認し、安全な服薬介助を行っています。必要時、使用する薬等はスタッフ内で相談し、服用していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事、音楽療法、ドライブ、ボランティア等に参加して楽しんでいただけるように工夫しています。残在能力に応じた役割を担っていただき、生き甲斐、達成感を持っていただけるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出できるよう、ご家族にご協力いただいたり、ドライブを企画したり、車椅子の方でも日常的に戸外に出られるよう支援しています。	重度化に伴い全員での外出は難しいが、週3回車でドライブや買物等を順次楽しんでいる。利用者にとり、日常生活の中で外気にあたることで五感の刺激となり得がたいものであると認識し、支援へとつなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持って使いたい希望の方には保管場所、領収書、出納記録をご本人と一緒に相談しながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望とご家族の都合とを調整しながら支援しています。ご本人の満足や安心が得られる方法を考えながら支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔に保てるよう、掃き掃除、拭き掃除を行っています。エアコン、窓の開閉、証明で快適な環境を整えます。季節の飾り、カレンダー、予定表等も整えます。	高い天井で自然の採光や風が感じられ、清潔感にあふれている。季節の花やグリーンカーテンで囲まれ、環境にも配慮がされている。廊下には利用者のさまざまな表情の写真が毎月入れ替えて飾られ、家族も楽しむことができる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において快適に過ごしていただけるように、居場所を整えます。場所を移動する場合、車椅子、手引き歩行時は特に安全確保します。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には馴染みの家具を置き、ご家族の写真を貼っています。窓の外には季節ごとに楽しめるように鉢植えを飾っています。	グリーンカーテンを通しやわらかい光が射し込む心地よい部屋である。利用者の使い慣れたタンスが持ち込まれ、更に職員の暖かい気持ちを感じられるレイアウトで整えられ、プライバシーの守られた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では廊下、トイレ、各部屋に手すりを設置しています。分かりやすいようにトイレ、浴室の表示をし、各部屋には利用者様の住んでおられた地名を貼って明確にしています。		